

The Sense of Wonder
into another garden

センス・オブ・ワンダー
もうひとつの庭へ

2020年3月20日|金・祝|—8月31日|月| ヴァンジ彫刻庭園美術館

杉戸 洋 / 須藤由希子 / ロゼリネ・ルドヴィコ / クリステア・レーア / 須田悦弘 / 川内倫子 / テリ・ワイフェンバック

開館時間:[3月]10:00-17:00 [4-8月]10:00-18:00(入館は閉館の30分前まで) 休館日:水曜日(4/29、5/6、8/12(水)は開館)、5/7(木)

入館料:[3月]大人1,000円(900円)、高・大学生500円(400円)、中学生以下無料 [4-8月]大人1,200円(1,100円)、高・大学生800円(700円)、中学生以下無料

*()内は20名様以上の団体割引 主催:ヴァンジ彫刻庭園美術館 協力:レイチェル・カーソン日本協会 Photo: Terri Weitenbach from *Centers of Gravity*

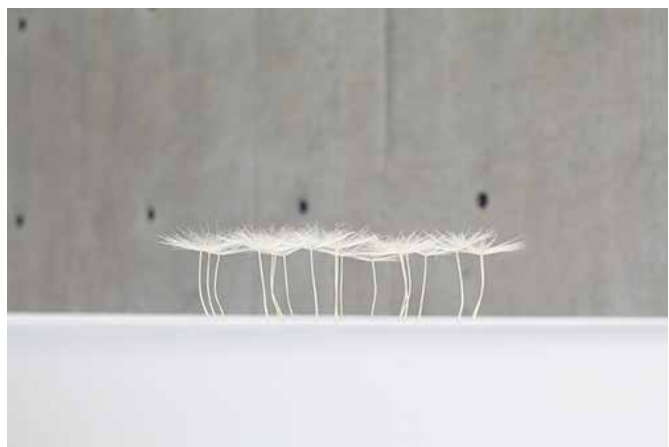
The Sense of Wonder into another garden
センス・オブ・ワンダー もうひとつの庭へ

地球の美しさと神秘を感じとれる人は、科学者であろうとなかろうと、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることは決してないでしょう¹。 —レイチェル・カーソン

1 レイチェル・カーソン著、上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』（新潮社、1996）より



杉戸洋《untitled-21》2006年 ©Hiroshi Sugito



クリスティアーネ・レーア《小さな塊》2015年 Photo: Kenji Takahashi ©Christiane Löhr

展覧会概要

ヴァンジ彫刻庭園美術館では、このたび「センス・オブ・ワンダー もうひとつの庭へ」展を開催いたします。『沈黙の春』の著者として知られる海洋生物学者のレイチェル・カーソン（1907-1964）は、遺作となった『センス・オブ・ワンダー』の中で、子ども時代からの自然とのかかわりにおいて、「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を持つことの大切さを説いています。現代に生きる美術作家たちもまた、澄んだ眼差しと繊細な好奇心を持ち、私たちが日々の生活のなかで見過ごしてしまっている世界をそれぞれの表現手法で視覚化し、作品をとおして、大切な何かを伝えようとしています。絵画、彫刻、写真、映像による作品がつくりだす、もうひとつの庭。自然とのかかわり方、豊かな出会い方を、私たちと同時代を生きる7名の作家たちの作品からご紹介します。

展覧会のみどころ

1 「センス・オブ・ワンダー」とは？

『センス・オブ・ワンダー』は、近年ますます深刻化する環境問題を考える上での古典『沈黙の春』の著者である、海洋生物学者・レイチェル・カーソン（1907-1964）の遺作として知られる一冊です。本書は、カーソンの姪の息子ロジャーと一緒に海や山を探索した経験をもとに、自然との出会い、対話を、文学的にも美しく、誰の心にも響くことばに書き残した貴重なテキストであり、アメリカでは1965年に出版され、日本では上遠恵子氏の翻訳により、1996年に新潮社より出版されています。カーソンが語る「センス・オブ・ワンダー」とは、「美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性」であり、自然科学の分野でよく知られた本書は、美術館の教育現場においても、インスピレーションを与えています。

2 「センス・オブ・ワンダー」と共鳴する現代アーティストたち

同時代に生きるアーティストは、身近な世界にある「美しいもの、未知なるもの、神秘的なもの」に気づく力を持った人たちであり、私たちが日々の生活のなかで見逃してしまっている世界を視覚化し、作品をとおして、大切な何かを伝えようとしています。本展覧会では、カーソンの「センス・オブ・ワンダー」と共鳴するような作家たちの作品をとおして、「現代アートはよくわからない」と思っている来館者にも、豊かなアートとの出会いと対話が実現することを願います。

3 「センス・オブ・ワンダー」の感性を刺激する鑑賞ツアー・ワークショップを開催

レイチェル・カーソンが語る「センス・オブ・ワンダー」の感性は、自然教育、環境教育、幼児教育など幅広い分野にかかわる人々の共感を得ており、美術館においても、ギャリートークやワークショップにおける「子どもと世界の出会い方」という観点に影響を与えてきました。本展覧会では、「センス・オブ・ワンダー」の感性を刺激する鑑賞ツアーやさまざまな分野で豊かな教育活動を行う講師をお招きしたワークショップを開催します。

4 映画「センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソンの贈りもの」上映会を開催

『センス・オブ・ワンダー』の翻訳者であり、ご自身も自然科学の分野で活動し、カーソンの研究を続ける上遠恵子氏が米国メイン州に現存するカーソンが訪れた森や海辺の四季を訪ねるドキュメンタリー映画「センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソンの贈りもの」（2001年、小泉修吉監督）の上映会を開催します。

展覧会名 | センス・オブ・ワンダー もうひとつの庭へ

参加作家 | 杉戸洋、須藤由希子、ロゼリネ・ルドヴィコ、クリスティアーネ・レーア、須田悦弘、川内倫子、テリ・ワイフェンバック

会 期 | 2020（令和2年）年3月20日（金・祝）-8月31日（月）

主 催 | ヴァンジ彫刻庭園美術館

開館時間 | 3月 10:00-17:00 / 4-8月 10:00-18:00（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日 | 水曜日（4月29日、5月6日、8月12日（水）は開館）、5月7日（木）

入 館 料 | 3月 大人1,000円（900円） / 高・大学生500円（400円） / 中学生以下無料

4-8月 大人1,200円（1,100円） / 高・大学生800円（700円） / 中学生以下無料

※（ ）内は20名様以上の団体割引

会 場 | ヴァンジ彫刻庭園美術館

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1

TEL 055-989-8787 FAX 055-989-8790 www.vangi-museum.jp

作家紹介

杉戸洋 Hiroshi Sugito

1970年愛知県生まれ。1992年愛知県立芸術大学美術学部日本画科卒業。東京藝術大学美術学部絵画科油画准教授。主な個展に「voyager」(愛知県美術館、愛知、2002年)、「April Song」(ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡、2006年)、「天井の下地」(宮城県美術館、宮城、2015年)「こっばとあまつぶ」(豊田市美術館、愛知、2016年)、「杉戸洋 とんぼ と のりしろ」(東京都美術館、東京、2017)。

須藤由希子 Yukiko Suto

1978年神奈川県生まれ。2001年多摩美術大学デザイン学科グラフィックデザイン専攻卒業。主な個展に「project N 29」(東京オペラシティアートギャラリー、東京、2007)、「一戸建て展」(Take Ninagawa、東京、2017)、主なグループ展に「メグロアドレスー 都会に生きる作家」(目黒区美術館、東京、2012)、「ノスタルジー & ファンタジー 現代美術の想像力とその源泉」(国立国際美術館、大阪、2014年)など。

ロゼリネ・ルドヴィコ Rosilene Luduvico

1969年ブラジル・エスプリサント生まれ。1997年から2003年まで、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー(ドイツ)に在籍。1999年にマイスター・シューラー取得。「Two Summers at Parkhaus」展にて杉戸洋と2人展を開催(パークハウス、デュッセルドルフ、2007年)。世界各地にて個展、グループ展に参加。

クリスティアーネ・レーア Christiane Löhr

1965年ドイツ ヴィースバーデン生まれ。ボン大学でエジプト考古学や歴史学、マインツ大学で芸術教育学などを学んだ後、デュッセルドルフ美術アカデミーヤニス・クネリス教室修了。現在、ケルン(ドイツ)とプラート(イタリア)を拠点に活動。2015年にヴァンジ彫刻庭園美術館(静岡)にて個展「宙をつつむ」を開催。

須田悦弘 Yoshihiro Suda

1969年山梨県生まれ。1992年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。多摩美術大学彫刻学科客員教授。現在、東京在住。近年の主な個展にヴァンジ彫刻庭園美術館(静岡、2018年)、毓繡美術館(南投、台湾、2017年)、千葉市美術館(千葉、2012年)、クラクフ日本美術技術センター(ポーランド、2011年)、ギャラリー小柳(東京、2010年、'07年、'99年、'97年)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川、2006年)など。

川内倫子 Rinko Kawauchi

1972年滋賀県生まれ。2002年に『うたたね』『花火』(共にリトルモア、2001年)の2冊で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞。2009年に第25回インフィニティ賞芸術部門受賞、2013年に第63回芸術選奨文部科学新人賞、第29回写真の町東川賞国内作家賞受賞。主な写真集に『Cui Cui』(フォイル、2005年)、『Illuminance』(フォイル他、2011年)、『あめつち』(Aperture 他、2013年)、『Halo』(HeHe, Aperture、2017年)など。

テリ・ワイフェンバック Terri Weifenbach

1957年アメリカ合衆国ニューヨーク生まれ。メリーランド大学でファインアートを専攻後、1970年代より写真制作を始める。主な写真集に『In Your Dreams』(1997年)、『Hunter Green』(2000年)、『Lana』(2002年)、『Between Maple and Chestnut』(すべて Nazraeli Press、2012年)など。2014年にはIMA gallery(東京)にて川内倫子と共に「Gift」展を開催。2017年にIZU PHOTO MUSEUM(静岡)にて個展「テリ・ワイフェンバック The May Sun」を開催。

展覧会関連イベント

・映画上映会「センス・オブ・ワンダー レイチェル・カーソンの贈りもの」開催予定

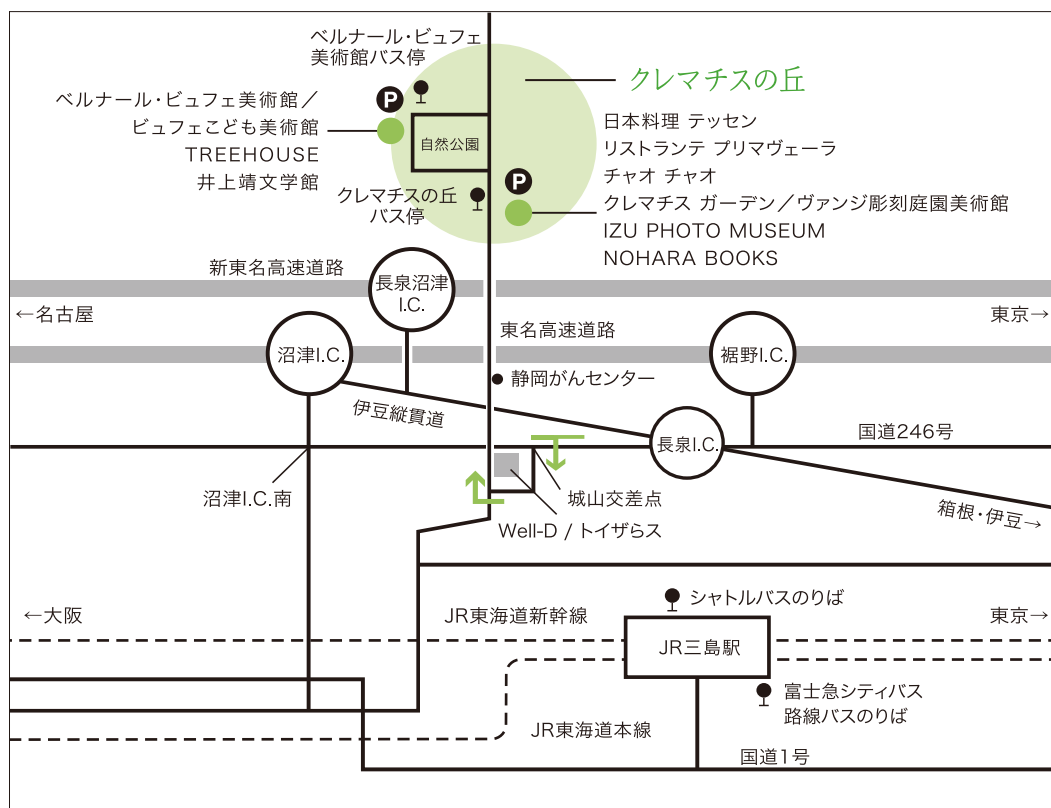
『センス・オブ・ワンダー』の翻訳者であり、ご自身も自然科学の分野で活動し、カーソンの研究を続ける上遠恵子氏が米国メイン州に現存するカーソンが訪れた森や海辺の四季を訪ねるドキュメンタリー映画の上映会を開催します。

・鑑賞ツアー・ワークショップ

展覧会に合わせて鑑賞ツアーやワークショップを開催いたします。

※詳細は美術館ウェブサイト（www.vangi-museum.jp）にて随時更新いたします

アクセス情報



お車の場合

東京方面より：東名裾野I.C.よりR246経由、沼津方面へ10km
 名古屋方面より：新東名長泉沼津I.C.もしくは、東名沼津I.C.より伊豆縦貫道へ、
 長泉I.C.出口R246右折/新東名長泉沼津I.C.より5km

電車の場合

JR東海道線「三島駅」下車、北口3番乗り場発、無料シャトルバスあり
 (所要時間約25分)

○行き[三島駅]北口(3番乗り場)発									
時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	40	40	40	—	00	00	00	00
	土日祝	40	40	40	—	40	40	40	—
○帰り[クレマチスの丘]発									
時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	—	15	15	15	35	35	35	20*
	土日祝	—	15	15	—	15	15	15	20

*は御殿場線「裾野駅」経由、三島駅南口行きです(所要時間約45分)

広報用画像

下の画像を広報画像として配布いたします。

ご希望の方は、画像にチェックし必要事項をご記入の上、下記宛先までメールまたは FAX でご連絡ください。

お願い：1. お手数ですが、掲載誌一部をご送付ください。

2. クレジット表記は画像下にあるものを表記ください。

3. ご取材の際は事前に担当者までご一報ください。

貴媒体名

掲載号 発売日／放映日 年 月 日

貴社名 ご担当者様

TEL FAX

E - MAIL

資料お届け期限 月 日 まで



テリ・ワイフェンバック 《Centers of Gravity》より 2017 年
©Terri Weifenbach



クリスティアーネ・レーア 《小さな塊》2015 年
Photo: Kenji Takahashi ©Christiane Löhr



杉戸洋 《untitled-21》2006 年 ©Hiroshi Sugito

お問い合わせ

クレマチスの丘広報担当：岸 美智代

E-mail: kishi@clematis-no-oka.co.jp

FAX: 055-989-8790

ヴァンジ彫刻庭園美術館

〒411-0931

静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1

TEL 055-989-8785 (水曜日)

www.vangi-museum.jp